

# 人丸神社の「むな札」見つかる

## 大田で、人麻呂研究に貴重な資料

なか、さだまった地がないが、林さん方にある文書には、大岬を江戸時代までは「韓の崎」とあり、大浦を「韓浦」としてある。

梅原さんは「人麻呂の長歌にある環焼や地名が、大岬の条件に一致し、人丸神社があったことは、人麻呂流刑の地であったことを一

大田市五十猛町大浦、五十猛郵便局には「明治二十五年奉建、可

良浦人丸宮一字成就、林弥三郎通

造営者の林弥三郎は、正幸さん

町の大岬にあったと伝えられる柿久」とあり、裏面には静岡神社社司、宮内久清の奉納歌「可良の浦

の四代前。人麻呂の歌った長歌「萬葉集巻二、一三五）にある「辛の崎」（からのさき）は、なま致致で個仙紙に書き残している。

人麻呂研究にユニークな見解を発表した京都市立芸大・梅原猛学

長が、このほど五十猛町を訪ね、人丸神社はかつて大岬灯台のあった場所

に鎮座し、現在は同じ大の地として大岬の地に新しい推理

浦の新羅神社に合祀されている。人麻呂神社の多くが、防火の神や水靈などとして祭られているのに

対し、純粋な歌の神としてあがめ

むな札（長さ八〇センチ、幅二〇



新しく見つかった人丸神社のむな札

